



これまでの基本理念をそのまま継承し、
『新、基山構想』を策定いたします。

基本理念

心豊かな人と人との関係づくり

自然と共生したまちの魅力づくり

みんなが進める協働のまちづくり

新、基山構想 (案)

めざすまちの姿

- 1 基山町 8 つの強み
- 2 基山町がめざす将来像
- 3 新しい人口の考え方
- 4 町民とかなえる 10 年プロデュース
- 5 全体構想図

1 基山町

今後の基山町的发展を考えると、まずは基山町ならではの基礎的特性（発展の可能性）を整理する必要があります。この特性を「基山町8つの強み」として、可能性に埋没させることなく活用し、現実のものとしていくために、積極的で戦略的な取り組みが必要です。

基山町8つの強み



1 福岡都心から わずか20分の立地条件

基山町は、福岡県筑紫野市・小郡市に隣接する佐賀県の東の玄関口で、非常に立地に恵まれており、九州内交通の基幹となる国道3号やJR鹿児島本線、高速バス停など九州の陸上交通の要衝地です。



2 九州で最も集客力のある 基山パーキングエリア

九州自動車道で最も通行台数が多い筑紫野IC - 鳥栖JCT間に位置し、同自動車道のPAの中では最も規模が大きく、高い集客力があります。平成19年から高速バスの乗り継ぎ拠点「基山バスストップ」としての役割も果たしています。



3 日本に誇る 基肄（きい）城の歴史

基肄城跡は、天智4年（665年）に大野城跡（福岡県）とともに築かれた日本最古の本格的な「朝鮮式山城」です。歴史的・学術的価値が非常に高く、佐賀県内で初めて国の特別史跡に指定された日本を代表する史跡のひとつです。



4 時代をリードする 優良企業の集まるまち

九州自動車道、国道3号の巨大物流拠点である立地を強みに、日本の明日を担う“ものづくり”の優良企業が集積。made in 基山を日本中にお届けしています。



5 15分圏内で全てがそろそろ コンパクトシティ

住宅、店舗、病院など、生活に必要な機能がJR基山駅を中心とした徒歩15分圏内に全てそろっており、福岡都市圏と生活空間をともにしながら、緑豊かで質の高い暮らしを実現しています。



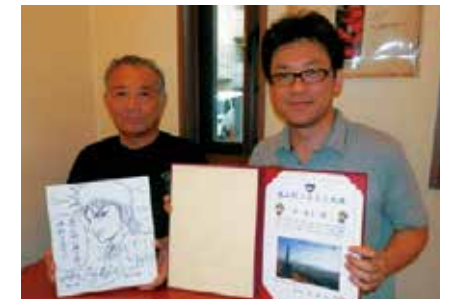
6 自然災害の少ない 安心安全拠点

極めて自然災害の少ない地域でありながらも、消防団の組織力や技能が高く、平成25年度には地域防災計画を見直すなど、自主防災に対する意識の高いまちです。



7 多彩な人材の宝庫

スポーツの盛んな基山町は、日本を代表する選手をこれまで数多く生み出してきました。また、町民栄誉賞を受賞された漫画家原泰久氏など文化芸能においても多彩な人材を多く輩出しているまちです。



8 県境を越えた 広域ネットワーク

高速道路の九州自動車道と大分・長崎自動車道が交わるクロスポイントに位置する利便性を活かし、福岡県久留米市・小郡市、佐賀県鳥栖市・基山町で「筑後川流域クロスロード協議会」を設置。県境を越えた地域の一体的な発展を図っています。



2 基山町がめざす将来像

アイが大きい基山町

～住む人にも訪れる人にも満足度 No.1 のまち基山の実現～



これからの基山町は、基山の誇りである「アイ」を大切に、住む人にも訪れる人にも満足度 No.1 のまち基山をめざします。


基山町は、昔ながらのあたたかい地域性の残るまちです。これを最大限に生かし、これからの基山町は、今を生きるすべての世代に心をつくし、大切に育ててゆくことが重要です。基山町で暮らすステイタスは、基山町という大家族のもとで、心豊かに暮らせること。生まれたての赤ちゃんから、わんぱくに駆け回る子どもたち、基山の明日を担う可能性あふれる学生たち、懸命に働く大人たち、子どもとともに成長する子育て層、経験値溢れるシニア層、豊かな余暇を送る高齢者、そのすべての人々に互いが心を通わせ合うことのできるまちを目指します。


また、基山町に訪れた人たちにも、心を込めたおもてなしをつくし、住む人にも訪れる人にも満足度 No.1 のまち基山を実現していきます。

そのためにも、基山町の魅力を効果的に発信することで、基山町に暮らす人々が誇りを持ち、訪れる人を引きつけるシティプロモーションによってまちを総合的にプロデュースしていきます。

「アイが大きい基山町」とは？（誇りと想い）

基山町は他よりちょっと  が大きいまちです

 基山町のシンボル「^{きざん}基山」が大きな誇りです。

 基山町は「ひと」が大きな誇りです。

I (愛) 基山町は「愛」が大きな恋人の聖地です。

i - (infomation) 基山 PA は福岡と佐賀をつなぐ大きな情報基地です。

+ **i**dea で、住民のみなさんのアイデアであふれています。

基山町は、たくさんの人が集う「**出**会**い** (**i**)」のまちです。

基山町のシティプロモーション ※

※「シティプロモーション」
まちの魅力をさまざまな方向から発掘、創造し、それらを地元だけではなく、町外の人たちとも共有し合うことによってまちそのものの価値や印象を高める取り組み。

将来像そのものをシティプロモーションとして展開し、町民の合い言葉として、広く町内外に浸透させる発信型のまちづくりを行います。

基山町がめざすまちの将来像「アイが大きい基山町」を合い言葉として共有することで、町内外の人が持つ基山町のイメージを一致させ、新たな基山町のまちづくり戦略をおこないます。

■基山のイメージカラーの設定：黄色（イエロー）

基山町の新しいイメージを表す色＝イメージカラーを「黄色」とし、まちの未来に新しい光をともし色として今後様々な広報や情報発信に役立てていきます。



町のシンボル「**き**」城に連想される色
美しい自然の象徴「**ホタル**」の光
キャンドルナイト／ライトアップの光
幸福をイメージさせる色
企業も一体となったまちのブランド化

黄色が持つ色の力

黄色は有彩色のなかで最も明るい色です。
知性を意味する色で人に喜びを与え、幸福をイメージさせる色とされています。

[m10y100]

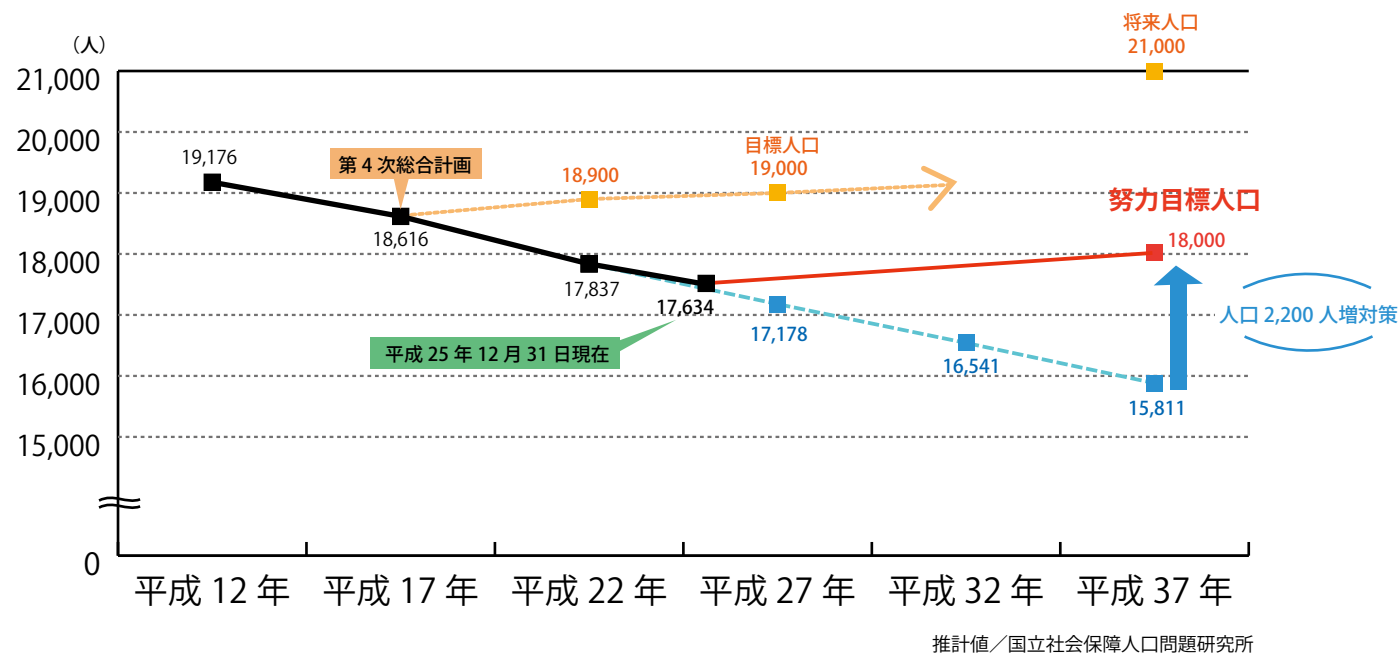
3 新しい人口の考え方

平成37（2025）年度の 努力目標人口 1万8,000人

日本の総人口そのものが減少しているなか、全国の多くの市町村において今後の人口減少が予測されており、基山町における将来人口推計でも平成37年では15,811人と現状の17,634人（平成25年）と比べ、1,823人の減少が予測されます。

今後、更なる住環境の整備、教育・子育て環境の充実、福祉医療の充実、にぎわい拠点の創出などに取り組み、人口の定住化や居住機能の向上を図ることで、流出人口を抑制していくことが必要となります。この厳しい社会情勢をふまえ、基山町では、この10年間を定住人口獲得の最後の機会と認識し、宅地開発を前提とした人口増対策に取り組み、平成37年の努力目標人口1万8,000人をめざします。

また、新しい人口の考え方として、町民の「活動量」が増えれば、まちの活力をさらに拡大させることができます。そのため本計画では、従来からの「定住人口」に加え、新たに「交流人口」「まちづくり人口」という視点で基山町の人口を考え、人口減少社会の中において、より質の高い行財政運営に努めることで、住民満足度を高め、流出人口の抑制、Uターン者等の受け入れに積極的に取り組みます。



平成37（2025）年度の 新しい人口目標 502万5,000人

定住人口 努力目標人口 1万8,000人

「住んでみたい」を実現する基盤づくりや精神的な豊かさの向上に視点を置いた住民満足度の高いまちづくりを進めます。

交流人口 (平成25年度 約452万2,821人) 目標人口 500万人

「訪れる価値あるまち」としての魅力高め、交流の起爆剤づくりを進めます。

観光入込み客数 + イベント参加者数 + 駅・高速バス停利用者数

まちづくり人口 (平成25年度 約5,643人) 目標 7,000人

定住または職業の有無に関わらず、町内で『社会的・生産的活動』を行っている人口をその対象ととらえます。従来の生産年齢人口などの区分にとらわれず、まちの活力を示す指標です。

基山の知恵くらぶ員数 + ボランティア団体等

※基山の知恵くらぶ：第5次総合計画策定にあたって町民ワークショップや地域別座談会などに参加し、知恵をしばっていた方を「基山の知恵くらぶ」員とし、カウントを行っています。

前述のシティプロモーションに加え、基山町定住戦略を検討し、あわせて『基山町人口戦略』を示し、将来人口の実現をめざします。

4 町民とかなえる 10年プロデュース

重点戦略

真の基山力（協働）を発揮する 10年に。

K-プロ

～きやまが「Kiyama」 かわる「Kawaru」 10年プロデュース～

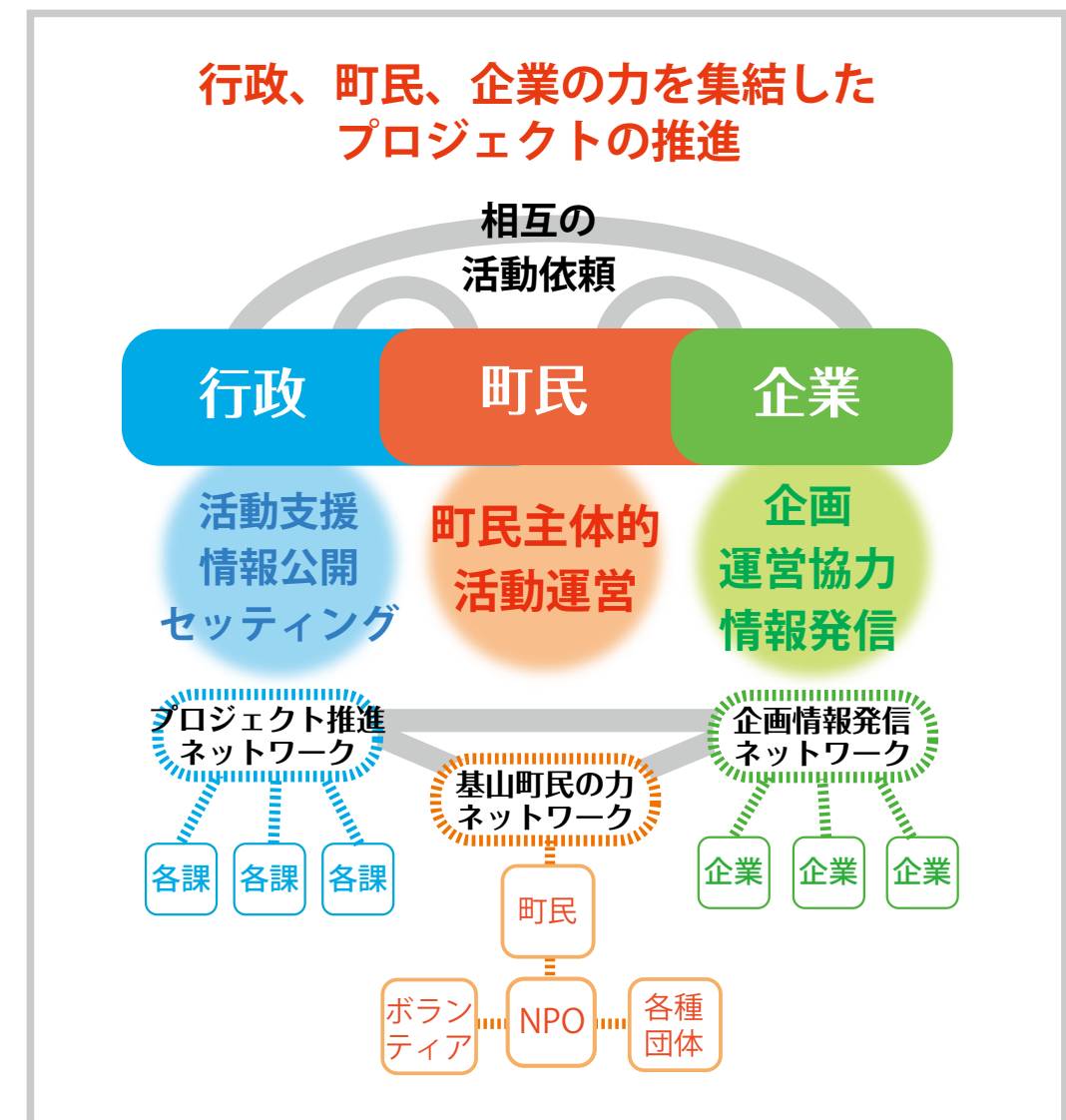
今、町民は変革を求め、自らも変わろうとしています。その動きを町全体の気運に高め、行政も町民も「今、自分たちが基山の未来を動かしているという実感」を得ることのできる真の協働の10年、「目に見える変化」を遂げる10年にしていくことが重要です。

これからは、真の基山力（協働）でまちづくりを成功させて行く時代です。業務の進捗や評価についても「目に見えるもの」にしていくことで、行政職員のモチベーションを向上させ、町民の達成感や団結力につなげ、町外からも協力者を増やし、様々な方面から基山町によりよい意見を取り込むことのできるしくみにする必要があります。

そのためには、人の動きや町の動きが見える、進捗や達成が見える、「変化が見える10年」にしていくことが最も重要です。基山町は「K-プロ」～きやまが かわる 10年プロデュース～を立ち上げ、目に見える3つの戦略のもと、5つのプロジェクトを展開していきます。

K-プロ推進体制のイメージは右図のようになります。

〔K-プロ〕推進体制イメージ図



目に見える 3つの戦略と 5つのプロジェクト

1 目に見える「ひと」づくり

「ひと」は基山の宝。基山のすべての町民が豊かな可能性をもつ存在として尊重され、一人ひとりがそれぞれの役割を担う大切な財産であるとの認識のもと、基山町で暮らす人たちがいきいきと活躍し、それが目に見える「ひと」づくりを行います。

基山アカデミック（教育）プロジェクト

基山 SGK（すごか）シニアプロジェクト

2 目に見える「価値」づくり

新たな基山の価値やブランドの構築を進めることは、そこに暮らす人や企業、暮らしそのものの価値を高めることにつながります。民間の力を借りながら、基山のシティプロモーション活動に積極的に取り組み、交流人口、定住人口の拡大につながる目に見える「価値」づくりを行います。

基山定住サプライズプロジェクト

※「ブランディング」プロジェクト

※「ブランディング」ブランドとして認識されていないものを価値のあるブランドへ育てあげるための活動

3 目に見える「評価」システム

本計画を確実に実行するためには、開かれた情報公開とともに、誰もが達成状況を確認できる評価システムが必要です。PDCA（Plan-Do-Check-Action）のサイクルにより、施策の実効性を高める好循環の構築を図り、住む人にも訪れる人にも満足度の高いまちを目指します。そのため、住民満足度調査により数値目標を具体化していきます。

基山満足度プロジェクト

あらゆる方向から基山の子どものための総合的な教育力の向上に取り組む

基山アカデミック（教育）プロジェクト



基山の豊かな自然環境のなかで、地域ぐるみ、社会総がかりで、総合的な子育て・子育て環境を整備することにより、子ども・若者が自立心や社会性を培い、これからの地域社会を担っていけるよう、県内 No.1 の総合学習力の推進を目指します。



基山町が考える総合教育

- 学力
- 体力
- 創造力
- あいさつ
- 働く力
- 生きる力
- 思いやり
- 自然体験
- 感性
- 知恵
- コミュニケーション
- 郷土愛

基山の idea（「基山の知恵 Cafe.」参加者の声）

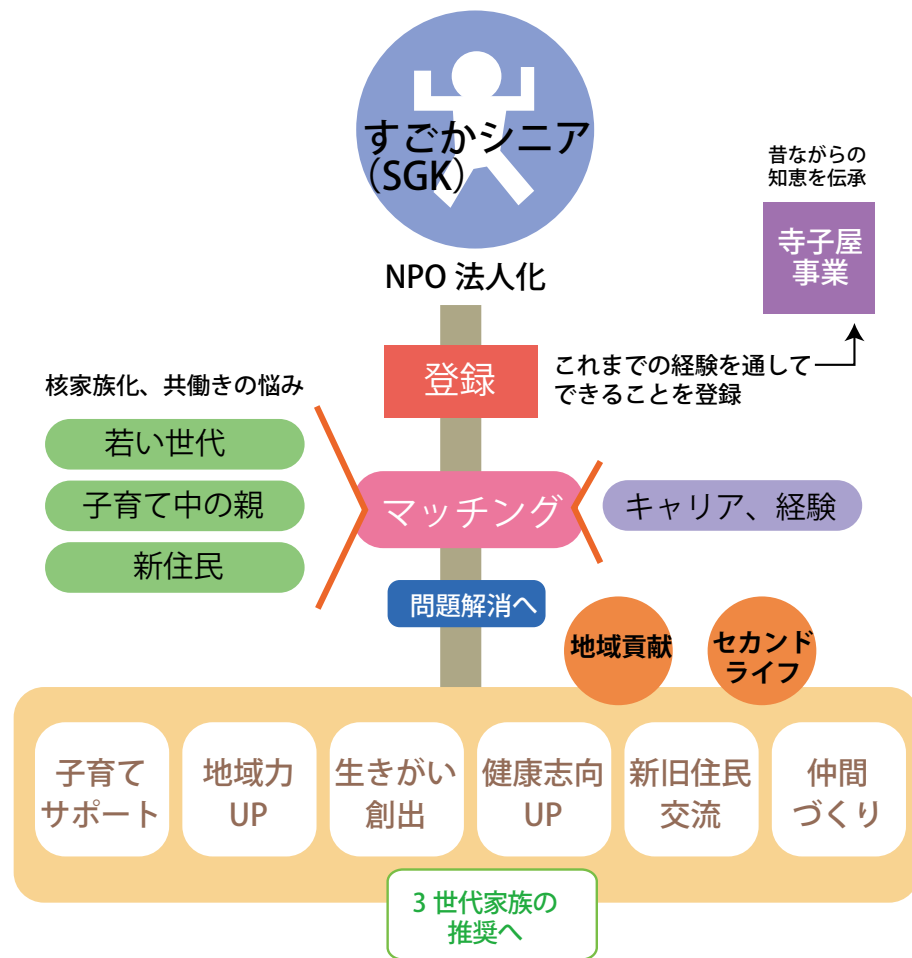
子育て世代を対象とした政策が必要／最新教育（タブレット導入等）／基山宿泊+LAB学生へ／子育てに「金」と「人」をつかう／基山町子育て応援宣言／子どもの五感が育つまち／子育て日本一めざせ／やっぱり子どもは大切。みんなで守り、子育て楽しむ／子どもの学力向上を目指し全国的に有名校にする／外で遊べる安全なまち／新しい図書館＝アカデミックサロン／ブロードバンド

基山町の経験豊かなシニア層を最大限に活かす人材登録制度をつくる

基山町 SGK (すごか) シニアプロジェクト



基山町の宝でもある経験豊かなシニア層を「す (Su) ご (Go) か (Ka) シニア」として登録し、子育て世代へのマッチング、地域力の底上げを図ると同時にセカンドライフにおける地域貢献と生きがいの創出、健康志向の引き上げを目指します。



基山の i dea (「基山の知恵 Cafe.」参加者の声)

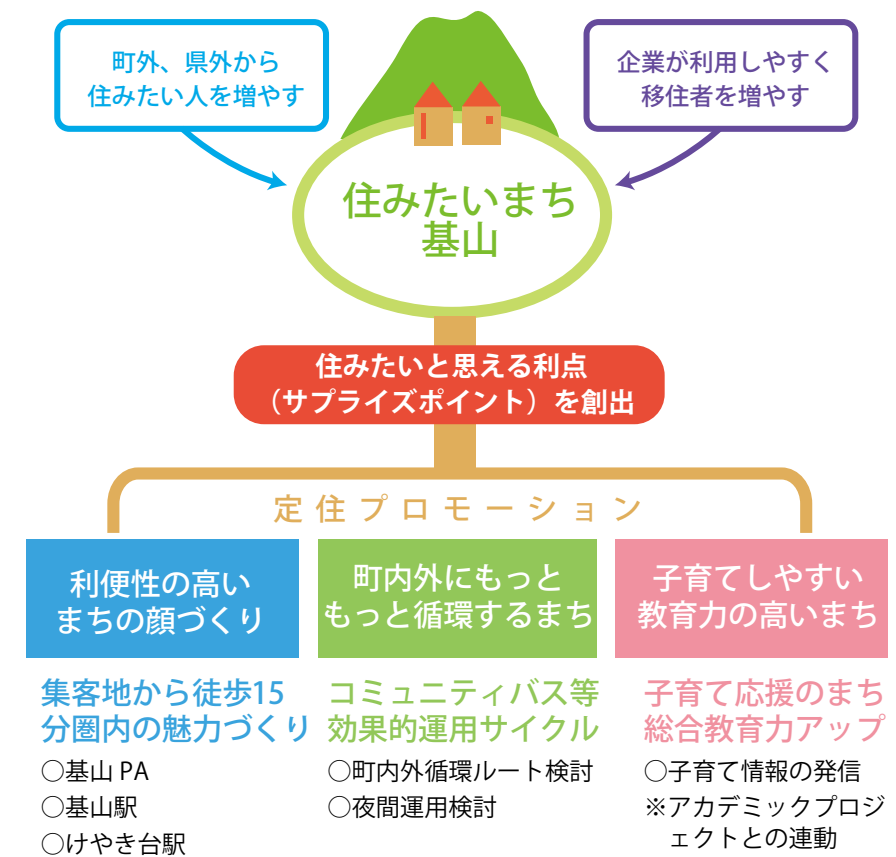
SGK と寺子屋制度は是非やりたい/シニア世代の「マンパワー」活用しないのはもったいない!! /シニアの宝(技術)の掘り起こし/シニアの結束と推進/シニア世代→ボランティアの活動→有効活用する…知恵/プチ就労/3世代世帯を増やす/高齢者向け住宅/シニアはお金がかかるというイメージを払拭/基山はシニアが元気=PR/子育て世代とシニアをマッチング

住みたいと思えるサプライズポイントを強化した定住プロモーション

基山定住サプライズプロジェクト



基山 PA、基山駅など集客力のある地から徒歩 15 分圏内をターゲットとし、大規模な地域資源の見直し、未活用地の検証を行い、ニーズに沿った各種の住機能を整備し、「住みたい、あこがれのまち基山」の創出を目指します。



基山の i dea (「基山の知恵 Cafe.」参加者の声)

すでに人が集まる場所『基山 PA・駅前』の活用/基山 PA は全国の人が基山を知る場所/駅前開発重要/(町外企業の意見) 近い将来にでも「働く人に優しい町」(コンビニ・ATM・カフェ・バス) となってほしい。従業員の満足度=会社の満足度につながる/駅を起点に循環バスを/空き家対策/駅前にマンションを/子育て世代の定住には教育と小児科/ラッピングバス

基山町の地域ブランドを確立し、発信力のある基山を育てる

基山ブランディングプロジェクト



モノに限らず、体験やステイタスなど、あらゆる分野から基山独自のブランドになりうる素材を磨き上げ、基山町の価値を高める動きをバックアップし、町の活気とうるおいの創出を目指します。

基山町の地域ブランドを確立



+

効果的なイベントとの連動

ターゲット戦略
短期的・長期的戦略／小規模・大規模戦略
町内へ向けて家族で楽しめる行事化

民間力の投入

- ブランディング
 - 特産品・商品開発
 - PR戦略
- おもてなし力
 - トイレ環境整備
 - ウォーキングマップ
 - 町内サイン

基山のidea (「基山の知恵 Cafe.」参加者の声)

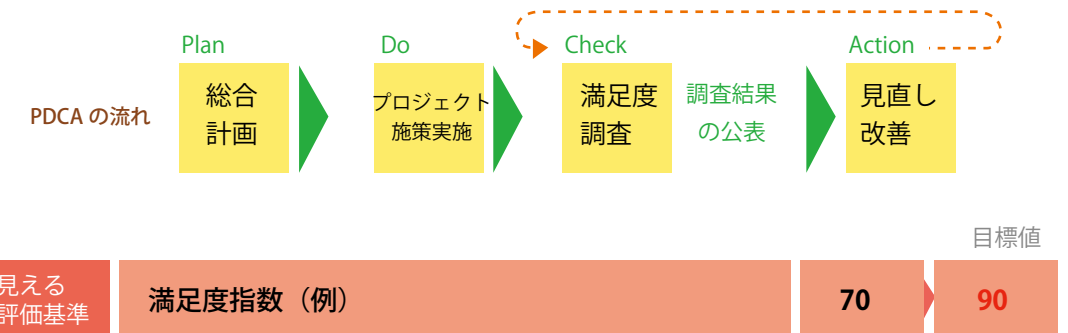
農作物のブランド化／神社、大興善寺等(お寺、神社)のPRをもっと／基山のシンボル化を推進／「外から見た基山町の魅力」を意識する／基山町にしかないものをつくる／B級グルメの開発／女性起業家をよぶ／『きやまん弁当』／基山の一番をつくらう／基山にお金をおとしてもらう／きやまんと行く工場見学／PR行動隊の結成／婚活イベント・名産を民間と一緒に

町民満足度の高い基山町へ向けて

基山満足度プロジェクト

本計画では、これまで計画の進捗状況としてしか評価ができなかった達成度について、町民の実感に基づく指標のもとに数値目標化し、目に見える評価基準をつくるために、中間年にあたる平成32年にも町民満足度調査の実施、公表、検証を行い、満足度の高いまちをめざします。

町民満足度調査とは 基山町が行う事業等に対し、町民がどの程度満足と感じているか、また、重要と感じているかを把握し、その結果を行政評価等に活用し、行政サービスの改善に資することを目的に調査を行うものです。



目に見える行政の変化が満足度につながる

行政目標

～変化を恐れず三步前へ！基山の満足度を引き上げる経営集団へ～

住む人にも訪れる人にも満足度 No.1 のまちをめざしていくためには、行政が経営視点で満足度を上げていく必要があります。高い自治能力を発揮していくためには、町民と職員の信頼関係を構築し、自ら地域へ赴き、現場の声をひろい、前に出る姿勢をもつことが大変重要です。長期的な満足度に関わると判断される事例には、変化を恐れず、満足度の実現のために具体的な行動を起こします。

基山のidea (「基山の知恵 Cafe.」参加者の声)

住民の満足度をあげる／行政が積極的に！／基山町在住者の1人1人の願いをしっかりとみ取って頂ける行政を！／希望を持てる行動を／だいじなこと この知恵をカタチにすること これはきやま愛／目標設定したら 実行チェック 対策 進捗率の確認

5 全体構想図

これまでの基本理念を継承しつつ、新たな基山町の将来像である「アイが大きい基山町」～住む人も訪れる人にも満足度 No.1 のまち基山～と、それを実現するための重点戦略『K-プロ』（3つの戦略と5つのプロジェクト）を基本構想と位置づけ、基本計画と連動して取り組んでいきます。

【基本理念】

- 心豊かな人と人との関係づくり
- 自然と共生したまちの魅力づくり
- みんなが進める協働のまちづくり

【基本構想】

めざす姿
[将来像]



～住む人にも訪れる人にも満足度 No.1 のまち基山～

重点戦略

K-プロ

[基山が変わる
10年プロデュース]

1 目に見える「ひと」づくり

基山アカデミック（教育）プロジェクト

基山 SGK（すごか）シニアプロジェクト

2 目に見える「価値」づくり

基山定住サプライズプロジェクト

基山ブランディングプロジェクト

3 目に見える「評価」システム

基山満足度プロジェクト

【基本計画】

まちづくりの方向性

施策体系

自然

+
idea

基山町の自然と開発が調和したまち

ホタル舞う水辺や基山（きざん）での草スキーなど基山町の豊かな自然は町民の誇りです。この自然環境を活かしながら、九州で最も集客力を持つ「基山 PA」を有するまちとして、魅力的な集客拠点や宅地整備等に力を注ぎ、人が集まる基山町を創出していきます。

- 1 土地利用
- 2 まちなみ環境
- 3 集客拠点整備
- 4 交通基盤整備

教育

+
idea

オール基山で人を育てる教育力の高いまち

基山町はスポーツに、文化芸術に、多くの人材を輩出しているまちです。今後は、総合的な教育力の高さを基山町の特長にできるように、地域の多彩なキャリア層や、新図書館の活用など様々な方面から学習の場を創出していきます。

- 1 学校教育
- 2 基山式まなび
- 3 スポーツ
- 4 文化財の利活用

にぎわい

+
idea

「基山発」を生み出すアイデアのあるまち

基山町の産業については高齢化、後継者不足、雇用など様々な問題を抱えています。今後は新たな価値を産むブランド化や地産地消、第六次産業、民間力の投入などアイデアを効果的に活用しながら、ヒト、モノ、カネが循環するまちを創出していきます。

- 1 農林業
- 2 工業
- 3 商業
- 4 観光
- 5 基山発

安心安全

+
idea

基山町に住む人を大切にするまち

高齢化が進む基山町において、福祉環境の充実が最も重要な責務です。高齢者の移動手段や集いの場などを充実させ、元気な高齢者が多い基山町の良さを継続していきます。また子育て支援や防災など、さらに地域力を強化し、支え合うまちを創出していきます。

- 1 子育て支援
- 2 高齢者支援
- 3 健康・医療
- 4 障がい者（児）支援
- 5 防犯・防災

協働

+
idea

基山町のために結束できるまち

「基山町まちづくり基本条例」を推進していますが、地域間においても様々な問題を抱えており、行政、町民間においても情報発信・共有が不十分な状況にあります。真の協働のまちを目指して、改めて町民主体の結束のまちを創出していきます。

- 1 まちの結束
- 2 人権・男女共同参画
- 3 情報公開
- 4 行財政

計画の考え方 (案)

1 これまでの基山、これからの基山

- 計画策定の背景
- 計画策定の趣旨
- 基本理念の継承
- 計画の特徴
- 計画の構成と期間

2 今後の社会展望

1 これまでの基山、これからの基山

計画策定の背景

基山町は、合理的かつ効率的な町政運営の指針とするために、昭和 50 年 3 月に「基山町総合計画」を策定しました。現在、平成 18 年度から平成 27 年度を計画期間とする「第 4 次基山町総合計画」に基づいて、基本構想に掲げたまちの将来像～集い ふれあい 助け合い～「みんなで創る人と自然が輝くまち きやま」の実現に向けて、総合的かつ計画的なまちづくりを進めています。平成 23 年 4 月には、県内に先駆けてまちづくりの最高規範となる「基山町まちづくり基本条例」を制定し、協働で創る安心・安全なまちづくりへの取り組みを進めているところです。

また今後は、全国的な傾向である少子高齢化の一層の進行や税収の減少等、地方自治体を取り巻く環境はますます厳しくなることが予想されます。これに加えて、地球規模での環境意識の高まりとバリアフリーやユニバーサルデザインの考え方など、町民の価値観・ライフスタイルの変化などにより、行政に求められる役割がますます多様化しています。これらは行政だけで解決できるものばかりではなく、これまで以上に町民との協働による施策の実施が求められています。

計画策定の趣旨

地方分権改革の進展に伴い、今後とも地方の裁量権と責任の拡大が進められるものと考えられます。このような時代において、基山町が自立して歩み続けていける「持続可能なまちづくり」を考えたとき、町民や町内企業との協働により総合的かつ計画的にまちづくりを進めていく必要があります。また、地方分権、急激な社会情勢の変化及び町民の価値観の多様化の中で策定される今回の総合計画は、基山町の将来を左右する重要な計画となるものです。

このような認識のもと、基山町行政における中心的な役割を担う計画として、平成 28 年度を初年度とする「第 5 次基山町総合計画」を策定します。

基本理念の継承

これまで基山町において基本理念は、第 1 次総合計画から今日まで目指すべきまちづくりの方向として、安易に変更するものではなく、将来においても維持されるべき性質のものとして位置づけられ、時代の潮流を踏まえた新たな視点を付加しながら掲げられてきました。本計画においては、様々な新しい視点で計画を策定しますが、基山町がこれまで大切にしてきた精神として、基本理念はそのまま継承します。

基本理念

心豊かな人と人との関係づくり

安全で快適に暮らしていくためには、人と人との心豊かな関係が大切です。これまで培われてきた連帯感や共同意識を失うことなく「心豊かな人と人との関係づくり」を基本理念とします。

自然と共生したまちの魅力づくり

まちの魅力をその大きさや利便性だけに求めるのではなく、基山町の貴重な財産である自然や歴史・文化を生かし、さらに共に生きる「自然と共生したまちの魅力づくり」を基本理念とします。

みんなが進める協働のまちづくり

住みよいまちづくりに向けて、町民一人ひとりが地域に関心を持ち、地域で主体的に取り組むことが重要です。また行政においても福祉の増進や基盤整備など、町民と行政とが共に考え、行動していく「みんなが進める協働のまちづくり」を基本理念とします。

計画の特徴

本計画は、次のような特徴をもち、町民・企業・行政が協働で活用できる「まちづくりの教科書」として位置づけます。

(1) 町民と行政が未来を共有し、協働で取り組む計画 ～「基山町まちづくり基本条例」を具体化した総合計画へ～

基山全体で取り組む気運を醸成し、「基山町まちづくり基本条例」を具体化させ、『町民の視点』『協働の取り組み』を反映させる計画とします。

(2) まちの魅力とブランド力を高める計画 ～“基山町のシティプロモーション”を展開できる総合計画へ～

対外的な視点から基山町をどのようなイメージで打ち出していくかというシティプロモーションの方向性を示し、目に見える価値づくりを取り入れた計画とします。

(3) 行政の経営指針として活用できる計画 ～計画の実施状況と成果がわかる、評価ができる総合計画へ～

行政の経営指針となりうる計画として、ハード・ソフトのあらゆる視点で指標化し、町民の満足度等成果を評価できる計画とします。

計画の構成と期間

総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成し、さらにこれを具現化するために「実施計画」を策定します。

(1) 基本構想

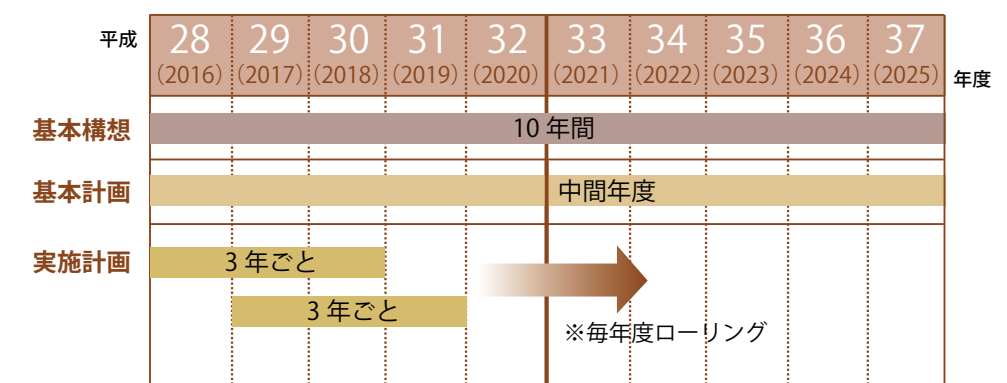
平成 28 年度～平成 37 年度（目標年次：平成 37 年度）基本構想は、町の将来像及び施策の大綱により構成する計画とし、平成 28 年度から平成 37 年度を目標年度とする 10 年の計画とします。

(2) 基本計画

基本計画は、基本構想に掲げる将来像を実現するために、取り組むべき主要な施策を分野ごとに明らかにして体系化する 10 年の計画とします。計画については、平成 32 年度を中間年度とし、進捗状況を検証します。その上で、検証に基づき必要な計画の再構築を行うことにより、基本構想の実現を図ります。また、基本計画の進捗状況を管理するため、各施策に目標値（指標）を設定します。

(3) 実施計画

平成 28 年度～平成 30 年度、その後、平成 37 年度まで毎年見直します。基本計画に示した施策への具体的な取り組みや実施期間を明らかにした短期的な計画で、毎年度における予算編成や事業実施の指針とします。期間は 3 年間とし、平成 28 年度を初年度として、3 年計画で毎年度見直すものとします。



2 今後の社会展望

1. 少子・高齢化の進行と人口減少社会の到来

人口減少、少子高齢化の進行により、地域の活力の低下や、高齢者単身世帯など支援を必要とする家庭の増加などが懸念されます。また、年金、医療、福祉などの社会保障経費の増大、人口減少による税収減などにより、地方自治体の財政状況の悪化が予想されるなど、多方面にわたる影響が考えられ、対応が求められます。

2. 町民参画の拡大と協働の取組の進展

社会への貢献意識の高まり、価値観の多様化等により、NPO 認証数が増加し、災害時等のボランティア活動も広がってきています。こうした状況を背景に、従来行政が担ってきた範囲において、新しい公共としての役割を NPO、ボランティア団体、事業者等、多様な主体が担いつつあり、町民参画の拡大および協働の取組を踏まえた地域経営が求められています。

3. 経済・雇用状況の変化

経済のグローバル化の進展、東アジア各地域の急速な経済成長と産業構造が高度化する中で、東アジアや環太平洋地域を中心とした生産ネットワークの構築や経済連携の動きが活発化しています。経済のグローバル化の進展に対して、技術力を活かした産業の高付加価値化を進めるとともに、世界各国との協調を図りつつ、共通の課題に取り組むことによって、国内各地域の成長力や競争力の強化につなげていく必要があります。また、観光立国として多文化に配慮した交流人口増への対応が求められます。

4. 安心・安全ニーズの高まり

東日本大震災をはじめ、国内外で大規模な地震が多発しており、今後、南海トラフを震源とする巨大地震の発生も懸念されています。

また、自然災害の激甚化や感染症の発生、子どもや高齢者を巻き込んだ犯罪や交通事故の増加などを背景に、安心・安全に対する関心が高まっています。

5. 環境保全意識の高まり

地球温暖化の防止、循環型社会の構築、生物多様性の保護等、環境への関心が高まっています。地球温暖化は、地球レベルでの気温や海面の上昇、洪水、高潮、干ばつ等の異常気象を引き起こすとされており、また、化石エネルギーに過度に依存する経済活動は地球温暖化を進めることから、経済発展と環境保全の両立する持続可能な社会の実現が必要とされています。

6. ライフスタイルの多様化

ゆとりや安らぎ、心の豊かさを求める意識が高まっており、また、価値観の多様化や長寿化による定年後の時間の増加に伴い、大都市居住者の地方圏や農山漁村への移住など多様なライフスタイルを選択する人が増えています。これらの多様な暮らし方や働き方を求める需要に対応する受け皿の確保と情報提供が課題となっています。

7. 高度情報社会の進展

携帯電話やインターネット、SNS の普及など、近年の情報通信技術の発達は、生活の利便性や産業の生産性の向上とともに、人と人のつながり方など、住民生活に大きな変化を与えています。

また、遠隔地でも高度な情報へアクセスすることが容易になったことから、産業立地等の分散や自宅勤務等の勤務形態の多様化が進むことが考えられます。

8. 地方分権の進展と行財政改革の必要性

国と地方の関係を対等な立場で対話のできるパートナーシップ型に転換し、住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ総合的に担うといった「地方分権」の改革が進められています。またこれからの時代、地方公共団体が単独で全ての行政サービスを担うことがより難しくなると予想されることから、近隣市町と広域的な連携を進める必要があります。

さらには今後、少子高齢化が進行するとともに人口減少が進み、一方で町の財政支出は膨らみ税収増も期待できない状況にあることから、行財政の仕組みの転換が求められています。